



週)報

2013~2014年度))) R I会長)ロン)D・バートン)
『ロータリーを实践して)みんなに豊かな人生を』
))))))))))第 2570 地区ガバナー)中)井)眞)一)郎)

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14)TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305)狭山市入間川 1 -24-48)TEL)04-2952-2277)FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)栗原憲司) 会長エレクト)稲見) 淳))副会長)高田虎光) 幹事)宮野ふさ子

〔第 3 グループ内の例会日〕 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 991 回(4 月 22 日)例会の記録

点 鐘 栗原憲司会長
合 唱 手に手つないで
第 2 副 S A A 守屋君、中谷君
卓話講師 M 2 トレーナーさとう治療院
アルペンナショナルシニア
男子トレーナー 早坂優一様

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
35 名	28 名	78.13%	90.91%

パスト会長の時間

守屋昭夫パスト会長

「ホロコーストから逃れる道」

今月の初めの例会に、会員の柴田さんが卓話をされた。題は「失われる日本語」であった。時間がなくその内容はよくつくられなかったが、その日本語は「義を見てせざるは勇なきなり」(人の道として当然行ふべきことと知りながら実行しないのは、その人に勇気がないからである)であった。主人公は「杉原久敏」で、第二次世界大戦中、バルト三国の一つリトニアの日本領事館に勤務していた領事代理であった。彼はヨーロッパから脱出しようとしたユダヤ人を助けることになる。



さて、ユダヤ人は世界中で、有史以前から嫌われており、多くの国で程度の差こそあれ、現地人から阻害され、迫害され、生命の危機さえあったことが知られている。ただ東南アジア、特に我が国ではそういうことはなかった。

しかし、ヨーロッパを中心として、反ユダヤ主義は根強く繰り返された。なぜそうなったのか。かつてエジプトにいたユダヤ人は制圧に耐えかねて、指導者モーゼに率いられ脱出する。その後、王国を作るがやがて滅亡し、彼らは世界中に散在

した。

古くから国の支配者(多くは征服者)は、その地に君臨、統治する際、中間管理者を必要とした。そこにユダヤ人が採用された。有能であったことが災いした。

例えば、昔エジプトのアレクサンドリア市が、ヘレニズム文化の中心として栄えた頃、マケドニア人(ギリシャ人)が、現地人を支配する際にユダヤ人は重宝がられ、経済を全面的に掌握するまでになった。しかし、支配者の力が弱まると、ユダヤ人はねたまれ、迫害され、略奪され、血を流された。

中世のスペインでは、サラセン人(イスラム)が撤退した後でも、また、第一次世界大戦後のドイツでも、同様のことがあった。そのためヨーロッパの各都市には、ゲットーと称するユダヤ人の住む地域(市域)が作られ、彼らはそこで肩を寄せ合うようにして暮らしていた(内なるゲットー)。そこから出て、より自由な生活を求める者は、人種や自分や宗教などを偽って(ユダヤ教がカトリック信者を装う)生活せざるを得なかった。日本で言えば、徳川時代の隠れ切支丹(キリシタン)のように生きる者もあった(外なるゲットー)。中には余りにも熱心に振舞うあまり、カトリックの聖者として、あがめられるようになった人もいたという。

このように昔から「帝国」が倒れるたびに、ユダヤ人の血が流れた。第二次世界大戦が終わってから、さすがにユダヤ人もたまりかねて、かつて神(ヤハウェ)から与えられてとされる、カナン(パレスチナ)に大挙して押し寄せ、強引に国を作った。先住民族もたまったものではない。そこでは今も争いが絶えず、血は流され続けている。

話を元へもどそう。

1933年にドイツのナチス政権が誕生(ヒトラー)すると、ナチスは政策として、ユダヤ人の圧力を強めたので、中央ヨーロッパから逃げようとする、大量のユダヤ難民が世界各地に安住の地を求め始めた。

1938年 8月、イタリア、ユダヤ人の排斥を始める。

11月、ドイツ、組織的にユダヤ人迫害を始める。

1939年 9月、ドイツ、ポーランドに侵入。

1940年 6月、ドイツ軍、パリ入城。

1942年 1月、ドイツ政府、ユダヤ人問題最終解決のため、ユダヤ人(1100万人)殺害を決定。

しかし、難民を受け入れる国はほとんどなく、ユダヤに好意的であったアメリカ、イギリスもそれを制限していた。

ユダヤ人が目指したのが東アジアであった。その最大の理由は、当時、上海がビザ(査証)なしに渡航者を受け入れる唯一の都市であったからであった。コースはシベリア鉄道で、中国東北部(満州国)のハルビンを目指し、陸路で上海へのコースが多かった。その途中、満州国の入国拒否にあう事件も起こったが、その時、助けたのはハルビンス特務機関長、樋口季一郎少将だった。このことで日本政府は、同盟国のドイツから抗議を受けるが、樋口は堂々と反論し、上司であった東条英機中将(後の首相)も、それを支持したという。

当時、ナチス・ドイツのように、ユダヤを完全に排斥することは「人種平等」という、日本の精神にそむくものであった。ウラジオストック～敦賀～神戸～上海と海路を使う人が多かったという。

従って、このような日本政府のヒューマニズム方針は、杉原氏の示した行動が、個人的に良心授けしたという俗説ではなく、日本政府も穏健な対応をしたということであって、必ずしも「義を見てせざるは……」とも言えないのではないと思われる。

さて、我々もいつまでも人の心配ばかりもしてられない。我が国は、まともな独立国であろうか。山本七郎氏は30年前、著書(日本人とユダヤ人)の中で、アメリカという「帝国」が弱体化しつつあると思われる現代においてこの先、日本にも国際社会からの迫害が起こりうるのではと、警鐘をならしている。

幹事報告

宮野幹事

(定例理事会)次の件が審議・承認されました。

- (1) 5・6月プログラム承認
- (2) 高岸会員、退会届受理
 1. パブリックコメント中間報告その2について
 2. 学友会ニュース(4月号)について
 3. 例会変更 所沢中央RC 入間南RC 飯能RC
 4. 受贈会報 所沢西RC

「外来卓話」・・・・・・・・

《講師紹介》

佐藤圭司会員

彼は早坂優一と申しまして、M2 トレーナーさとう治療院のエース格でございます。鍼灸マッサージの免許と持ち、また日本体育協会のAT(アスレティックトレーナー)という、1000人に1人しか取れないトレーナー資格を取って活躍しております。当院に来て5年になりますが、初めに来たときは本当に手の動かない、治療の出来ないトレーナーでした。しかし今は素晴らしいトレーナーとなり、4年ほど前にはスキー協会から名指しで、全日本のアルペンスキーの男子チームに就いてほしいとの電話を頂きました。

今回のソチオリンピックに向けて、ヨーロッパ中、雪を求めて年間9ヵ月位、スバルから2台のワゴンを提供され、日の丸を付け、選手と色々格闘してきたことを、今日は「スポーツトレーナーと選手との関わり」ということでお話して頂きたいと思います。

我々スポーツトレーナーとは、縁の下の力持ちと言いますが、オリンピックでも表にはほとんどでることがありません。彼はアルペンスキー日本No.1の湯浅という選手に付きましたが、この選手はアルペンスキーで日本に80数年ぶりにメダルが取れるかといった逸材の選手です。その選手がオリンピックを1ヵ月前にして、足を骨折してしまいました。もう無理かということでしたが、早坂が一生涯懸命治療し、1ヵ月で競技に復活させたということで、この話は世界中に流されました。この後説明するかと思いますが、なんとか競技に出て、メダルには繋がりませんでした。平昌オリンピックに向けてまた指導を始めるといったトレーナーです。当院のM2 トレーナーの中でも一番輝くトレーナーですので、皆さんお耳を傾けて頂きたいと思います。

『スポーツトレーナーと選手との関わり』

M2 トレーナーさとう治療院

アルペンナショナルシニア

男子トレーナー 早坂 優一 様



皆さんアルペンスキーという競技が、どういった種目かご存知でしょうか？4種目あるのですが、「滑降」が山の頂上から一番下まで滑り降りるも

の、これは 130km、140km という凄いスピードがでるもので、生身で出る世界で一番早い種目であると思います。こちらは、やはり重い方がスピードも出ますし、曲がるときには何 G もの力がかかりますので、体の大きな海外選手が多く、残念ながら日本にはチームがありません。そしてその他に「スーパージャイアントスラローム」「ジャイアントスラローム」「スラローム」、日本でいう「回転」「大回転」「スーパー大回転」があります。今、日本がきちんと戦えているのは、「スラローム」という種目で、こちらはワールドカップのランキングで 30 位以内に入っているという状況です。

湯浅選手とは、オリンピックシーズン、色々な取材を受け、テレビでも特集を組んで頂いておりました。しかし直前に怪我をし、出場できないかという所でしたので、オリンピックに向けてという番組がどんどんと削られてしまいました。



「回転」という種目は、旗（ポール）が立っている雪上を、一番早くターンし、ゴールした人が勝ちといった単純明快な種目です。綺麗な所で滑る人が一番有利ですので、国のランク、ワールドカップのランクで順番が決まっています。

競技場ですと、多くて 8 万人位が入るスタジアムとなりますが、雪山になりますと堺がないため、平気で 10 万人位は観客がいらっしゃいます。それだけヨーロッパ、中央ヨーロッパではスキーという種目が一番で、スキーが滑れない人はほとんどおりません。子供の頃から滑り、才能があると思われる者は、スキーヤーを目指すという形になっております。特にオーストリアやスイスは、スキーでは 1 番でなければいけないといった強い気持ちを持って強化しておりますので、選手たちは凄い環境で、契約金等はアメリカのスポーツに引けを取らない位稼いでいます。

競技は、だいたい時差の関係で日本の深夜に始まります。2 本滑るので、そこまで見ると朝方になってしまい、リアルタイムで見ると人はなかなかおりませんが、あちらでは毎週末、スキーシーズンになりますと色々な種目を夜通し、国営テレビ、日本でいう NHK のようなものが、必ず放映しているくらい有名なものです。

その中で日本人選手はとても人気があります。日本ではあまり考えられないようなことですが、巨人の選手のような感じで、街中で見かければ誰か必ず声を掛けてくれるというくらい、特にトップの佐々木明選手や湯浅直樹選手は、子供達からもサインを要求されるほどの人気です。彼らもしっかりと語学を勉強しているので、外国の方からのインタビューにもしっかりと受け答えをし、それがテレビに流れますので、とても有名です。

以前、私が次の場所まで湯浅選手を乗せ、運転を

していた所、スピード違反で捕まってしまいました。そのときに隣の湯浅選手のことをワールドカップ選手だと言いましたら、警察官が写真を撮らせてくれと皆出てきて、「よし行っているぞ」とその場を免除して頂いたことがございます。日本との温度差を感じます。

私は年末にアルペンスキーに就いてくれとお電話を頂き、色々な確認事項がありましたが、最終的に 5 日後にはヨーロッパに来ておりました。何もわからない状態で荷造りをし、行ったのですが、周りのコーチやサービスマンというスキーをチューンナップする専門の人達が、温かく迎えてくれました。私はスキーを全く滑ったことがなく、彼らが滑るところは山の上の方なので、最初はアイゼン（足の裏のトゲトゲ）を付けて、登っておりました。

彼らが滑る雪上は、天気が良ければ前の日に平らにし、水を撒き、そして次の朝の冷え込みでカチコチに凍らせます。こうすることで不利な状況が生まれにくくなるのです。柔らかい雪ですと、モーグルのこぶのようになってしまう為、大会当日も水を撒き、後ろで滑る人にも、体の安全の面でも考慮がされております。そうした所を彼らはスキーのエッジを立て、曲がってくるのですが、そこを歩くというのはやはり大変で、何度も転んでしまいました。試合の時、カメラマンの方もよく下まで落ちていくことがある程です。

初めてで何もわかりませんでした。色々な苦労がありました。2 年目になりまして、スキーを 1 本提供して頂き、これで練習をし、もっと雪上の仕事をしろと言われました。バーンが硬いもので、ポールをなぎ倒して滑っていきますが、何度も当たるとすぐにポールが折れてしまうのです。それを何人も滑ってくる間に差し替えろと言われてたり、後々ビデオミーティングで使うビデオを撮ったり、タイミングというタイムを測るものを取り付け、無線で送られてきたものを書くといったことを雪上ではしておりました。スタッフが少ないので、意外と忙しかったです。

私が係った 2011 年から、次のオリンピックに向けてということで、佐々木選手と湯浅選手はワールドカップのランキングで 30 位以内に入っておりましたので、この 2 人をなんとか持ち上げ、若手 4~5 人を同じレベルまで育てていこうということでしたが、現状なかなか若手は育てておりません。

オリンピックに出るためには厳しい基準や選考がありまして、世界選手権等大きな大会で 15 位以内に何回入らなければいけないといった決まりや、ランキングで何位以内でないとい最初から足切をされてしまうといった競技です。象徴的なのは女子アルペンで、フィジカルトレーニングもしっかりとしてきて、戦える選手は 2 人位いるのですが、選考基準を満たすことが出来ず、今回残念ながらオリンピックには出られませんでした。

サービスマンの方は、昔アルペンスキー等をしてきた人たちで、スキーが非常に上手く、スキーを3~4本担ぎ、選手の荷物を持ちながら、登ったり下ったりの移動をするといった、本当に達人のような人たちです。エッジを夜な夜な研いたり、ワックスを塗ったりということを、毎晩しております。硬い斜面を滑っているので、エッジはどんどん丸くなり切れなくなってくるのですが、それをダイヤモンドなどで削り調整をするという、とても大変な仕事をしております。

今回リフトに乗り、今まで歩いて登っていた時には見えなかった山頂からの景色を見て、登山の人気を納得することができました。ヨーロッパは、スキーをしながら山を登ることが非常に盛んで、日本でも徐々に流行ってきておりますが、スキーの裏にシールというアザラシの皮を付け、登って下りてくるという運動が非常に流行っております。その他オフの日には、ヨーロッパの街並みを観光する等、貴重な経験をさせて頂きました。

2013年にやっと湯浅選手がワールドカップで3位に入りました。これがなぜ凄いかといいますと、世界選手権やオリンピックは、強い国の人たちでも各国3人という枠があるのですが、ワールドカップは何人でも出場できるのです。その中で3位という結果であったため、オリンピックではもっとチャンスがあるのではないかという見方になり、このままの調子を続けて行こうとしておりました。また湯浅選手はヘルニアを患っておりますが、この日も痺れも痛みもあるような状態での3位でした。そのため協会やコーチも、彼に怪我がなければいけないと思っており、実際この時期から腰痛はありましたが調子は良かったのです。

しかし、オリンピック開幕3週間前、スラロームは大トリだったので5週間ありましたが、距骨という部分を骨折してしまいました。普通のアスリートでは8週間かかるのではないかと診断されました。ここを折ってしまうと、色々な所に影響がでてしまいますので、皆諦めたような状態になり、消沈モードになっておりました。しかし彼自身だけは、何としてでも出るという強い気持ちがありました。

まず海外で怪我をしているので、日本に帰って検査をしている暇がないということ、また日本に帰るためのフライトで、恐らく悪化するのではないかというドクターの判断もありまして、オーストリアの一番腕の良い医者にご相談致しました。その結果、ボルトで固定し、骨がしっかりとくっつけば何とかなるとのことでした。そのため、周りの筋肉がおちないように等、色々なことをしっかり準備し、あとは50/50で、出られない可能性の方が高いけれどもチャレンジしてみようと、色々行ってきました。私の知り合いの医師にも、骨折が早く治る治療法を色々聞いてみましたが、日本に昔からある「高圧酸素治療室」や、骨粗鬆症のための薬を飲み、自分で注射をする方法等、色々

教えて頂きました。

海外ということもあり、用意できたのは超音波でしたが、これは最近研究が進んできており、骨折の治りが30~40%早くなるということで、毎日レンタルをしながら、色々なリハビリをしてきました。アルテGという特殊な器械がありますが、腰から上を空気圧で上げ、普段腰が痛くて歩けないような状態でも、体重の10%から加重ができるトレットウィルというもので、彼は体重が70kgいかないくらいですので、7kg、15kgという状態にして、歩く練習から徐々に走る練習を致しました。これが筋肉を衰えさせない、変な癖を付けないということで、とても役に立ったともいえます。また彼は美食家として、ヨーロッパの食事があまり好きではありません。普段は中華やイタリアンに行っていたのですが、ホテルから1歩も外にでられませんだったので、コーチと相談し、湯浅選手をキッチン付の部屋にして頂き、朝はモーニングができましたので、昼、夜と私が買い出しに出かけ、毎日私が作っておりました。アジアンショップに行きますと、醤油等最低限のものは売っていたので、そうしたもので野菜炒めや味噌汁を作り、彼がしっかりと食事をとれるように、痩せてしまわないようにと、試行錯誤しながら日本食等を作りました。さとう治療院に入ったときに、掃除と料理をしると言われたことが、非常に役に立ちました。

彼にも色々なプレッシャーがあったと思います。自分の所属している企業やスキー協会などから、やはり出場しなければメディアにも取り上げてもらえないですし、常に気を張っている状態でした。私と彼の趣味は将棋でしたので、休日何もなしときには2人で将棋をしたりと、リラックスしながら、リハビリをしておりました。またヨーロッパのマッサージは皮膚の表面を撫でるような、リンパマッサージでして、リンパの流れが良くなると体も良くなるといった形でやっていくので、そういったことでもしておりました。アルペンスキーの選手の体は、余分な脂肪がなく、全身筋肉できております。1週間前にドクターから、痛みが無ければ動いて良いという診断をして頂き、皆そろってソチに行けることになりました。

マルチサポートセンターとは、今回初めて国立科学スポーツセンター(JISS)の施設、お風呂や治療器具を丸ごと借り、ここで日本食も食べることができました。

何とか間に合いまして、3日前に初めてスキーを履いて滑ってみました。色々なことを相談しながら、痛み止めの注射は致しましたが、2日前には行けそうだということで、出場致しました。結果は、2本目のコースが史上稀にみる、非常に難しいコースだったので、物議を醸しました。残念な結果となってしまいました。そして今まで引っ張ってきた佐々木選手が引退をし、これからは湯浅選手一人で戦うような形になると思います。



永田雄治様(陸前高田 RC)

本日はメイクアップよろしくお願ひします。

栗原(憲)君 陸前高田 RC 永田雄治様、ようこそお出で下さいました。

M2 トレーナーさとう治療院、アルペンナショナルシニアチーム男子トレーナー 早坂優一様、ようこそお出で下さいました。卓話よろしくお願ひ致します。

宮野君 陸前高田 RC の永田様、トレーナーの早坂様、ようこそお出で頂きました。心より歓迎致します。また、卓話楽しみにしています。

江原君 アルペンナショナルシニアチーム男子トレーナー 早坂優一様、ようこそお出で下さいました。ソチオリンピックでの様々の体験等お話を楽しみにしております。会長の時間での守屋パスト会長のお話し、毎回興味深いお話しを楽しみにしております。お二方様、本日は何卒よろしくお願ひ申し上げます。

また、陸前高田 RC の永田雄治様、ようこそお出で下さいました。お時間の許す限り楽しんで行って下さい。

稲見君 M2 トレーナーさとう治療院、アルペンナショナルシニアチーム男子トレーナー 早坂優一様、今日の卓話楽しみにしています。陸前高田 RC 永田雄治様、ようこそお出で下さいました。

小島君 M2 トレーナーさとう治療院、早坂先生 ようこそいらっしやいました。お話し楽しみにしていました。

柴田君 陸前高田 RC の永田さん、本日は日程調整としての我がクラブへの訪問ありがとうございます。

高田君 早坂様、卓話よろしくお願ひします。

夫人誕生祝 賣積君

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の項目を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は全て価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

言行はこれに照合してから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか

次の例会

第2副SAA 小幡君 奥富君

5月20日(火) 12:30~13:30

外来卓話 国際ロータリー第2570地区

パストガバナー 加藤玄静様(本庄RC)

